

テーマ 「交通安全教育・指導」

交通社会の事故状況に触れ、児童が自分の命を守るために必要な指導要点



レポート

普通乗用車での死角体験



長久手市立 市が洞小学校

教職員研修

令和6年7月22日(月)

体育館・外通路

60分間

教職員 約35名



- ヘルメットのポイント
- 1、まゆ毛まで深くぶる
 - 2、耳の横 ベルトはV字
 - 3、あごの下 指2本分



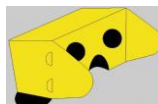
毎月、日本全国のどこかで、児童や生徒が犠牲になる事故がおきています。生徒に接している先生方の日々の声かけは、児童が命をまもることへの大きな一歩です。(片山)



B-Force 中田さんのお話
身近なところでも重大事故が発生しています。決して「自分だけは大丈夫だ、車が止まってくれる。」と思っはけません。



チャイルドビジョン



ルームミラー



たくさんの死角がある自動車。車の運転者から見えていないかもしれない。ルームや再度ミラーだけでは十分に見えていない。道を渡る時は止まって安全確認「右・左・右・後ろ」。チャイルドビジョンで、児童の視野の狭さを体験した先生方は、「だからこそ、見る方向に顔を向けて視界を拡げて安全確認することが大切ですね。」と実感。

校長先生の講評

教員自身が交通社会状況に危機意識を持ち、日々児童へ語り掛ける重要性を再認識させられた。身近な環境でも児童が巻き込まれ重大な事故が多数発生していることを学び、改めて当事者意識を高めた。子どもたちに自分自身の目で見て考えて安全を確かめることの大切さを伝えたい。6/28日に、1年生と3年生対象の交通安全教室を実施して頂いてから、登下校での横断時に、子どもたちが「右左右後ろ」と周りをよく見る習慣がついた。

写真と文：OSCN 片山

主催：長久手市立市が洞小学校
プログラム立案・代表講師：片山昇
協力：愛知警察署交通課交通総務係

受託：交通教育NPO OSCNじてんしゃスクール
講師：愛知県警察本部第一交通機動隊 B-Force 中田慎二 巡査部長

この研修は、6月28日「1年生・3年生自転車交通安全教室」とともに、市が洞小学校よりOSCNが受託した事業です。



じてんしゃスクール